

第1章

大学での学びと情報検索

問題解決や意思決定のために、「必要な情報を見極め、それらを効果的・効率的に収集し、集めた情報の中から信頼できる情報を見極め、それらを適切に活用する能力」、すなわち情報リテラシーは、大学で習得すべき重要なリテラシーの一つです。

この章では、高校までの学習と大学での学びの違いを踏まえて、この講義で学ぶ情報検索と大学における学びとの関係を解説します。

大学での学び

- 高校までの学び
 - すでに答えがあることに取り組む
- 大学での学び
 - 現実の課題, 未知の課題に取り組むしたがって, 答えがない
- 大学では, それらの問いに,
自ら考え, 答えを出き出せるようになることを目指す
 - * 課題解決, 意思決定

高校までの学びと大学での学びとの最も大きな違いは, その問いにすでに答えがあるかどうかです。みなさんは高校までに沢山のことを学んできました。ただし, その内容は, 既に誰かが明らかにしてきたことでした。そのため, テストではその問いに対して答えを書くことができました。しかし, 大学での学びではまだ答えが明らかになっていないこと, つまり現実の社会で今まさに問題となっている課題やまだ答えが見つかっていない問いに取り組むことが求められます。

大学では, こうした課題にいかに関学的に取り組むことができるかの方法, つまり, ある領域の課題に対して, これまでに何が明らかにされてきたのか, そうした課題にいかなる方法でアプローチし, どう答えを導き出してきたのかについて, それぞれの専門の立場から, その方法を学ぶこととなります。このとき, それらの課題にはたった一つの正解が存在するわけではありません。大学での学びでは, こうしたまだ答えのない課題に対して, 皆さん自身が, 「自ら考え, 妥当な方法と手続きを踏んで, 答えを導き出せるようになること」が目指されます。

大学で学んだ課題解決の方法は, みなさんが大学を卒業した後も, 社会や実生活で出会うさまざまな課題に対して, 意思決定をしたり, 課題解決する際に役立ちます。みなさんは, これからの大学生活の中で, こうした課題に取り組むために必要な専門的知識をさらに深く学ぶと同時に, 今ある現実の課題について, いかに関組み答えを導き出せるかという, 課題解決の技法を鍛錬し習得していくこととなります。

J-GLOBAL (科学技術総合リンクセンター)

- 科学技術振興機構(JST)が提供する学術情報の総合データベース
- 研究者, 文献, 特許, 研究課題, 機関, 科学技術用語などを検索できる
- 人文・社会科学の用語も豊富に収録している

次に, JSTシソーラスにおける統制語(ディスクリプタ)を調べてみましょう。ディスクリプタを見つけるためのツールとして, J-GLOBAL(科学技術総合リンクセンター)を取り上げます。

J-GLOBALは, 科学技術振興機構(JST)が全国の研究機関から集めた科学技術情報の総合データベースです。J-GLOBALは研究者, 文献, 特許, 研究課題などのほか, 科学技術用語を検索できます。

「科学技術用語」では, JSTが作成している統制語彙表であるJSTシソーラスを検索できます。なお, 科学技術用語といっても自然科学だけでなく, 人文科学, 社会科学の用語も豊富に収録されています。

日本法令索引の活用

- 以下のような検索が可能
 - 特定の事項についての法案・法令が見たい
 - 特定の法令の改正経過を知りたい
 - 特定の回次の提出法案を見たい
 - ある分野に関する現行法令にどのようなものがあるか見たい
 - 特定の年の国会で成立した法令の一覧を見たい

『日本法令索引』では、検索条件を組み合わせることで、特定の事項についての法案・法令が見たい、特定の法令の改正経過を知りたい、特定の回次の提出法案を見たい、ある分野に関する現行法令にどのようなものがあるか見たい、特定の年の国会で成立した法令の一覧を見たいといった検索が可能です。